



Okamura LIFE

free paper



HouseではなくHomeをつくる

Okamura LIFE vol.21 2025.4.1発行 発行元：株式会社オカムラホーム 〒276-0029 千葉県八千代市上南2-16-25 tel.047-407-9905



オカムラホーム 公認キャラクター

おかぽむ



オカムラホーム公式SNS

facebook



Instagram



x (旧 twitter)



LINE



<https://www.okamura-home.co.jp/>



その後、どのように暮らしていますか？

八千代市 G 様



白い外壁に格子窓、グランドアールウォールと印象的な外観。デザインが目を引くG様邸にお邪魔しました。
のびやかな吹き抜けに陽光がさんさんと注がれたリビングで、ぼーっと過ごしたり、お昼寝するのがとても心地よいんです。と、優しく微笑まれる奥様。「僕が一番のお気に入り、2階の書斎かな。ちょうどいいおこもり感で過ごしやすいです」と話すのはご主人。

とにかく住むだけでほっとするという、ご夫婦憩いの場所となったお住まい。以前は社宅のマンションに住んでいらしたご夫婦。「古くて手狭だったこともあり、いずれ出て行くのであれば、いつか自分たちの家を持つ」と考えはじめたそうです。もともと戸建て派で、ありきたりではない家を求めているG様。通勤1時間圏内で探して、木こち家ラボに出会います。「モデルハウスも見学しましたが、無垢材のぬくもりや、個性的な間取り、お洒落なデザインなども印象的。『立地』×『価格』×『デザイン』のちょうどよいバランスが、大きな決め手になりました」と当時を振り返っていました。

オリジナリティを大切に創り上げたG様邸。その想いの通り、白を基調に角を切り取ったかのようなR型の外観が、シンブルでありながら意匠性の高さを感じさせます。室内は高さのある吹き抜けやハイサイドライトにより、明るく開放感に包まれたLDKを中心にレイアウト。無垢材の床や化粧梁、ウッドパネル、黒の飾り柱やスチール階段、ステンレスキッチンなど落ち着いたデザインがアクセントとなり、ナチュラルかつスタイリッシュ

シユな空間になっています。「素材やインテリアについては、ふわっとしたイメージはありましたが、具体的にはなかなか決められなくて…。そんな時、担当のインテリアコーディネーターさんが私たちにぴったりなものセレクトしてくれました。ステンレスのキッチンも当初は迷ったのですが、思い切って採用。スタッフ皆さんのセンスの良さがとても頼もしくて、安心してお任せできました」と、笑顔で答えるご夫婦。

さらに、G様邸はデザインだけではなく、暮らしやすさにも配慮。引き戸はすべて吊りタイプを採用しフラットな床に。キッチンから洗面脱衣室・浴室は動線を短くし、家事をラクにする工夫満載の間取りになりました。洗面脱衣室には物干しバーをはじめ、衣服やタオルをしまえる大型収納、アイロンをかけるためのハンガーやファミリークロゼットなど収納も充実しています。

「気になる住宅性能に関しては、木こち家ラボさんを選んだ時点で、不安はありませんでした。実際、冬はエアコン一台で過ごさせています」と、HEAT20 G2の断熱性・平均C値0.2以下の超気密性・頑強な耐震等級3を標準仕様で確保しているお住まいに、大きな安心感を持たれている様子でした。

最後に奥様から、「とても楽しい家づくりでした。これから家を建てる方には、とにかくどんなことでも相談してみてくださいとお伝えしたいですね。リビングの窓を格子窓っぽくしたいとずっと思っていたので、インテリアコーディネーターさんにお伝えしたら、次の打ち合わせには提案してくれて、実現できました」と、実体験を元にアドバイス。スタッフの親しみやすさも、家づくりの大きなポイントとなったようです。





住宅再生専門店 ヴィンテージ木ここち 施工事例

祖父から父へと受け継がれた住まい。その歴史を次世代へ 船橋市 I様



今回お訪ねした船橋市にお住まいのI様の家系は、江戸時代後期の文政年間からこの地に暮らしてきたそうで、I様はその9代目にあたります。現在のお住まいは、お祖父様が材木商を営んでいた頃に建てた家で、登記簿によると築77年。良質な木材がふんだんに使われ、昔ながらの風格が漂うこの立派な古民家は、三世代にわたって受け継がれてきました。

I様は結婚後、ご実家の敷地内にある離れを増築して暮らしていましたが、その間、ご両親とお祖母様はこの古民家に住み続けていました。その数年は空き家となっていました。「隙間風や壁の腐食など、老朽化が進んでいましたし、昔の家なので間取りも現代の生活には合わず、建て替えを考えていました」とI様は当時を振り返ります。

そんな中、ご長男ご家族が実家に居ることが決まり、裏の建物を新築することになりました。それに伴い、I様ご夫妻は古民家に移ることに。しかし、「リフォームをしても、設備や間取りが使いづらいのでは」との不安が残っていたそうです。

そんな折、I様は「ヴィンテージ木ここち」と出会います。実は、I様が所有する駐車場にオカムラホームの看板が設置されており、その担当営業とI様には面識がありました。ここから古民家再生事業の話が持ち上がり、津田沼のモデルハウス「輪家」を訪れることに。

「実際の古民家をリノベーションした空間を体感し、イメージが湧いてきて、無垢材のフローリングや漆喰の塗り壁など、自然素材を活かした和モダンの仕上がり気が入り、祖父母

や両親が大切にしてきた家ですから、できる限り残したいという想いが強まりました」と語ります。

I様にリノベーションに際しての気を付けた点を伺うと、「基本的にはプランナーにお任せをしました。自分たちでは思いつかないような提案をいただけて嬉しかったです。特に、玄関をオフイシャル用とプライベート用に分けたことで、来客がキッチンを通らずに済むようになり、奥様のストレスが軽減されました。また、リビングと奥様の部屋には漆喰の塗り壁を採用。「空気の心地よさが違いますし、古民家の雰囲気とも合っていて満足しています」と話します。また、「夫婦それぞれの部屋を設けたことで、テレビ番組やエアコンの設定温度の違いを気にせず、快適に過ごせるようになりました」とのこと。さらに、「神棚や仏壇も大工さんが造作棚に収めてくれたので、うまく馴染みました」と満足気な様子でした。

最後に、リノベーションを考えている方へのアドバイスを伺いました。「引き渡しから数年が経ちましたが、コロナ禍を経験し、あの時リノベーションをしておいて本当によかったと感じています。家にいる時間が増え、もし古い家のままだったら大変だったでしょうね」とI様。奥様も「高齢になってからの大掛かりな工事は大変ですし、いろいろなことが良いタイミングで進んだと感じています」と語ります。

旧き佳き建物を活かし、現代の暮らしに合わせたリノベーション。ご夫妻のお住まいは私たちが理想とする「古民家再生」の形になりました。





地域情報く頑張っているママをご紹介します

刺繍作家 amaoto

夏目 真代さん



市原市にお住まいの夏目さんはamaotoという作家名で刺繍作家として活動をされています。ピオラの刺繍が代表作として浮かびますが、ものづくりをはじめた当初は、布ものを中心に制作されていました。

「現在18歳になる娘が生まれた時に、ハンドメイドを始めました。最初は、自分の子どもに使用したいと思い、ベビースタイやスカート、ポーチなどを作っていました。次第に友人たちから作ってほしいと声をかけられるようになり、マルシェにも出店するようになりました」と夏目さんは当時を振り返ります。

「都内の古本屋で見かけた美しい刺繍の洋書本がずっと忘れられないでいました。立体的な花の刺繍がとても印象的で、いつか自分で作りたいと思います。そんな中、コロナ禍で家にいる時間が増えたこともあり、限られたスペースでできることを始めようと考え、独学で刺繍を学びました。書籍を読んだり、YouTubeで学んだりしながら技術を身につけ、Instagramに作品を投稿するようになりました」と夏目さん。今では少しずつ活動の場を広げ、都内のマルシェにも出店されています。

作品に使用する刺繍糸はDMC社の艶のある刺繍糸を使用していましたが、イベントを通じて出会った作家さんの影響で、天然染めの糸にも興味を持つようになりました。「千葉県には、ベングラ染めや藍染めを行う作家さんが多くいます。彼らの手で染

められた糸を使わせていただく機会が増え、環境に配慮した素材を取り入れることを大切にしています」と素材へのこだわりを語ります。

活動の幅が広がってきたきっかけになったのは、友人からの声かけでした。「新しくカフェを始めた友人が、私の作品を置きたいと言ってくれて、そこからさらに別のカフェやピザ屋にも声をかけてもらい、委託販売が広がりました。特に千葉県袖ヶ浦で活動する作家団体に登録したことで、他の作家さんや主催者とながり、マルシェへの出店機会が増えていきました」と、人との出会いが活動の広がりにつながっていることを実感しているそうです。

作品づくりで大切にしているのは、「心を込めて丁寧に作ること」既製品にはない温かみや想いを作品に込めるよう心がけていらっしゃいます。

「同じデザインでも全く同じものは作れませんが、そのときどきのときめきや感情を大切にしながら制作しています。作品を手にとった瞬間、生活の中で特別な思い出を作ったかきかけになれば嬉しいと思います。例えば、ブローチやピアスを身につけたときに、このアクセサリーを着けていた頃、子どもはこのくら



いの年齢だったな。と思い出してもらえるような存在に私の作品がなれたら幸せです」と、とびきりの笑顔で話してくれました。

今後はオンラインショップにも挑戦したいと考えている夏目さん。さらに、昨年9月から地元市原市で「ひみつの庭のはなてマルシェ」を主催されています。このマルシェはお寺に併設されたカフェの美しい庭を舞台に、四季折々の花々を楽しめるイベント。「小さなマルシェですが、回を重ねる度にお客様が増え、認知されていることが嬉しいです」と訪れる人々がゆったりと過ごせる空間づくりを大切にされている様子でした。

最後に、「amaoto」という作家名の由来を伺うと、「雨の音がらきています。子どもの頃から、しずく」の形が好きで、雨の日も大好きなんです。カラフルな傘にポツポツと雨が当たる感覚や音のイメージで名付けました。でも、実はものすごい晴れ女「なんです」と、ユーモアを交えて教えてくださいました。



ひみつの庭のはなてマルシェ

毎月第2日曜日開催
10:00～15:30
※5月は18日(日)に開催します



instagram



instagram



一般社団法人 MIRAI KOMINKA for School
「第4期」SDGs 成果発表会&みらいSDGsフェス」



昨年12月21日(土)、高校生ならではのアイデアをもとに「産学官」で地域創生をめざした「MIRAI KOMINKA for School」第4期プロジェクトが成果発表会を迎えました。今年度は9校、約180人の高校生が参加しました。

会場であるイオンモール八千代緑が丘には、各チーム代表の高校生が集結。ありがたいことに、活動にご協力くださった皆様や、活動に興味を持ってくださったお客様で会場は大盛況となりました。また、後援をいただいた佐倉市から西田三十五市長、八千代市から服部友則市長、船橋市から杉田修副市長もご多忙の中、応援に駆けつけてくださいました。

程よい緊張感の中、各チームの高校生はプロジェクトを使い、これまで学んできた地域が抱える社会課題の発表や、その解決のきっかけとして取り組んできた活動の成果、商品への思いを発表しました。高校生たちは、普段は学校単位で活動しているため、他校のプロジェクトについて知る機会が少なく、他チームの発表は新しい刺激となったようです。

プロジェクトを進める中で多くの苦労があったことと思いますが、「気づき、考え、行動する」を合言葉に最後までやり抜いた第4期生を誇りに思います。さまざまな経験を通じて成長した第4期生の姿に、先生方も感動されていました。

最後に、総評をいただいたPermanente plant株式会社 代表の池田様からは、「大人もこのSDGsプロジェクトと一緒に頑張ってきました。これからは皆さんが先輩にカッコイイ背中を見せられるよう、SDGsへの思いを継続して欲しい」と力強いメッセージをいただきました。

た。

今後、SDGsオリジナルスイーツ&フードを開発したチームは、第4期プロジェクトで参加したイベント等の販売会で得た売上金を、自分たちが支援したい企業や団体に寄付します。

また、当日はコラボイベントとして、八千代緑が丘駅前広場にて「みらいSDGsフェス」を同時開催しました。このイベントは、地域でSDGsや社会貢献活動を行っている個人・団体・企業が集まり、出店者の皆様がそれぞれ「私のSDGs」を掲げ、高校生とともに「八千代」や「千葉県」を盛り上げる催しです。地球環境に配慮したハンドメイド作品の販売や、お子さまも楽しめるワークショップ、フリーマーケットも開催し、多くのお客様にご来場いただきました。

Schoolのブースでは、建築用資材の



余りを活用したロボット制作のワークショップを実施。八千代市立阿蘇米本学園の中学2年生がボランティアスタッフとして活躍してくれました。初めての開催となるイベントでしたが、主催者側も多くの学びを得る機会となり、次回はさらにパワーアップして、皆様に笑顔をお届けできるよう成長していきたいと考えています。

最後に、この場をお借りして、第4期生の活動を支えてくださった協力店舗や農家の皆様、地域の企業の皆様に心より感謝申し上げます。

第5期プロジェクトも引き続きご支援・ご協力を賜りますよう、よろしくお願ひ申し上げます。



MIRAI KOMINKA for School
最新情報はInstagramから
ご確認いただけます。



@miraikominka4sch

オカムラホームは持続可能な開発目標 (SDGs) を支援しています





円です。季節限定で販売させていただきました「イチゴのクレープ」も大変ご好評をいただきました。ありがとうございました。

他の軽食メニューとしては、「グリルチーズサンド」を販売しております。①イワシ（千葉産直サービスのトロイワシの缶詰）と玉ねぎのマリネとチーズ、②ガーリックバターで炒めた3種類のきのこチーズ、③あんことクリームチーズ、④キーマカレーとチeddarチーズの4種類を500円〜700円で販売をしています。

ドリンクにつきましては、オリジナルブレンド珈琲の他、4種類のスムージー（①アサイ・ミックスベリー等で作った「赤」、②ケール・キウイフルーツ等で作った「緑」、③バナナ・カシユーナッツ等で作った「黄」、④紫芋・黒蜜等の「芋のスムージー」）があります。

最後になりますがこれからの季節に冷たくておいしい「チョコチャンクフラッペ」や、入母屋珈琲名物の「八千代の牧場の生乳を使った濃厚ソフトクリーム」も販売をしています。ぜひ一度ご賞味くださいませ。

佐倉市の近くにお越しの際はお立ち寄り頂き、自然の中で素敵なカフェタイムを満喫してみてください。「一棟貸切旅館成田さくら邸」及び、「かぐやの森」の現地ご案内も可能ですのでお気軽にスタッフにお声掛けください。

今回は佐倉市吉見にあります【入母屋珈琲成田さくら店】をご紹介します。

成田さくら店は、東関東自動車道四街道ICから車で15分程度、京成白井駅とユーカーが丘駅からはバスで20分程度と少し中心街から離れた場所にあります。竹林に囲まれ、自然の中で飲食をしていただくことができる店舗となっています。

当店は、古民家の納屋を改装したテイクアウト専門店になっています。敷地内にあります【一棟貸切旅館成田さくら邸】（古民家をリノベーションした旅館）の宿泊や一棟貸切でのレンタルのご予約がない場合には古民家の中でゆっくりと飲食をすることも可能です。同敷地内にありますもう一つの施設「かぐやの森」（手ぶらBBQ及びテントサウナ施設）で焚き火を囲みながら、更にはドックランでもワンちゃんと遊びながら飲食をすることが出来ます。

【入母屋珈琲成田さくら店】は、入母屋珈琲2号店としてオープンし皆様のおかげで4年目を迎えることができました。以前に販売を中止していましたが「もちもちクレープ」につきましてはたくさんのお声にお応えさせていただき、昨年12月より販売を再開致しました。

クレープのメニューとしては、バナナ、ミックスベリー、アップルの3種類になり、生クリーム、カスタード、チョコソースの組み合わせができます。お値段は650円〜850

 入母屋珈琲 成田さくら店

住 所 〒285-0834 千葉県佐倉市吉見 204
 T E L 043-290-9320
 O P E N 12:00~16:00
 C L O S E 水曜定休

▶ その他メンテナンスなどにより休業することがございます。
 随時ホームページにてご案内しております。

HP



/ リフォーム部よりお知らせ /

シロアリの被害を防ぎましょう!

4月から5月はシロアリ群飛の時期です!!

ヤマトシロアリ群飛

新しい住まいを探しに羽根アリが発生します。
家屋内、家屋外で特に住まわれている家屋内で

羽根アリ群飛を見かけたらご相談ください!

他にも イエシロアリが6月から7月に、
アメリカカンザイシロアリは4月から10月に羽根アリ群飛します。

黒い羽アリが

シロアリか
黒アリか
見分ける方法

point
01

春の黒い羽アリはシロアリの可能性あり!
黒ではなく茶色の羽アリも要注意!

point
02

胴体が寸胴の黒い羽アリはシロアリの可能性あり!

黒い羽アリが家に出たらどうする?

STEP
01

シロアリか黒アリか見分ける

STEP
02

殺虫剤を使わない一時的な対処をする

▶ 一時的な対処としておすすめなのは、掃除機で吸い取ったり、粘着テープでくっつけたりして駆除しましょう。掃除機で吸い取ったシロアリは圧で死滅しますが、念のため、掃除機の中のゴミは速やかに処分すると安心です。

▶ 黒い羽アリがシロアリだった場合、殺虫剤を使うのは止めましょう。目に見えるシロアリ自体は死滅しますが、逃げ延びたシロアリが奥深くに入り込み被害範囲が広がるリスクがあります。壁の中や土の中で生き残ったシロアリが殺虫剤を嫌がり、活動場所を変える恐れがあるためです。

STEP
03

専門業者でアリを駆除

オカムラホームでもアリの駆除や対策の相談を承っております。
是非ご相談ください!

シロアリ点検中



オカムラホームのリフォーム

お問合せ&ご相談は
 0120-210-341

12 OKAMURA LIFE PHOTO CONTEST

2024 Winter
入賞作品発表

第12回 OKAMURA LIFE PHOTO CONTEST 入賞作品が決定しました!

オカムラホームの注文住宅・分譲住宅にお住まいのお客様、オカムラホームでリノベーションやリフォームをされたお客様を対象に素敵な“OKAMURA LIFE”を撮影いただきました。ご応募いただいた全77作品の中から、当社社員、プロカメラマンによる厳正なる審査のもと、16作品の入賞が決定しましたので一部ご紹介させていただきます。

📷 OKAMURA LIFE 部門

📷 お家自慢 部門

👑 WONDERFUL 賞
U 様 「やられたあ」



👑 GOOD 賞
K 様 「餅つき」



👑 NICE 賞
S 様
「田舎に越して、2回目の七五三」



👑 FINE 賞
H 様
「幸せな日々♡」

👑 WONDERFUL 賞
S 様
「我が家の中心」



👑 GOOD 賞
H 様
「造作のカップボード」



👑 NICE 賞
K 様
「シン・河野家」



👑 NICE 賞
K 様
「Panasonicキッチン
ラクシーナ」



本誌のスペースの都合上、紹介できなかったお写真はホームページやInstagramにて掲載させて頂いております。▶ https://www.instagram.com/okamura_photocon/
次回のOKAMURA LIFE PHOTO CONTESTは2025年7月の開催予定です。お楽しみに♪



